

## ガラス細工のような

## 若い心に接して

小島 直美

日々の電話相談を通して現代の子どもとその周辺について、と、この連載のご依頼をいただいて一年、子どもの成長に伴ってのさまざまな事を一緒に考えていただけたかと思えます。

最終回となる今回は、思春期、青年期、あるいはそれ以後の人たちからの、「人間関係」にかかわること、社会の中での自分の生き様など、人間として自己

に向けた深い悩みの相談から学ばせていただいたことをお話ししたいと思います。

自らを肯定しておとなになっていくむずかしさ

人の第二の誕生と言われる思春期、青年期にとって、自分とはいったい何なのか、に向きあうことは大切な課題です、私はどう生まれてきてこれからどう

なっていくのか、他人から見た私とは何なのか、その他人とどんな距離をとりながら近づいていったらいいのか……。今あるがままの自分を肯定し、自らの人生として自分を引き受けて生きていこうとする決意が必要な時期なのでしょう。

### 女子高校生（二年生）の不登校相談

初めは母親からの相談で、娘が高校入試の発表の日から友だち関係のことで悩みだし、落ちこむことが多かった。友だちに対して自分が表現できない、言葉が深く考えちゃう、友だちが輝いて見えるのに比べて自分はひとりで苦しんでいると訴える。学校も休みがちでそろそろ単位が心配。

母親からの四回目の電話の時、本人が電話口に出る。

高校にいと一時間一時間が重苦しい。でも家にいると「あとどれだけ留年だよ」と言われることにおびえる。夜、明朝母親に学校に行きたくないと言って

いる自分の姿を想像すると、明日はすつと行けるといいなと思う。

みんなができていること、普通のことができない自分がなさけない。そんななさけない姿を友だちに見せているだけでみじめ。しっかりした人間になりたい。

父が死んで（本児が中学生の間、父親が闘病生活。

中学三年で亡くなっている）、母が苦勞しているのもわかる。それなのに自分がこんなで母を心配させ、母も子どもの管理が悪いと周囲から決めつけられていることもつらい。私が先生に母が無職だと言っただけで再婚したのかと思われたことも、私は「家」を守れていないんだな、と思ってしまう。

具体的には友だちとの手紙のやりとりや、サークルの金銭面のトラブルのことなどをこまごまと話してくれました。

女子高生にはよくあるちょっとした誤解やすれ違いが、彼女の場合ほどどんどん溝を深めていってしまうよ

うです。自分に自信が持てず、小さな出来事が大きな傷になっていく痛みが、一時間半に及ぶ彼女の話を聞いていて伝わってきました。こんなに自分のことを聞いてもらえたのは初めて、と明るくなってきた口調で語ってくれましたが、父の死という過酷な分離体験をした彼女が、自分を立て直していくにはまだ時間がかかることでしょう。

### 男子高校生（二年生）の進路適性相談

やはり初めは母親からの不登校相談。二か月位たって本人が直接四回にわたって電話をしてきた。

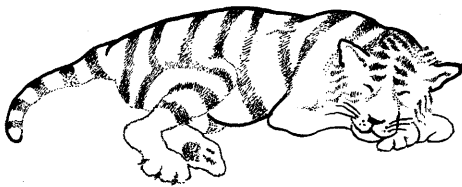
もう高校はやめる。中退を決めた。今、学校の先生に電話をして「さっさと退学させてくれ。あんたは教育者として失格だ」とかなり言いたいことを言ってしまった。もう学校からかかってくる電話にびくびくしないですむ。大検をとって受験すればいい。

今までの自分が嫌、完全に過去のことを忘れたい、白紙に戻したい、いつまでも引きずってたくない。

人が幸福か不幸かは自分の感じ方。どうころんでも学校生活ですばらしい人生はありえない。ひとりでの幸福と大勢でいられる幸福では後者の方がレベルは高いのか。でも今はひとりでいられる幸福はある。今まではそれ以下だった、いじめられもした。いじめは戦争よりひどい、戦争は敵もいるが味方が必ずいる。いじめはひとりつきり。

電話をしたのは今不幸だからではない、話してみたい。人間と話したい。いつもは自分で自分に話しかけているだけ。自分にも人間は必要なのだと思う。

相談員は相談を受ける側の方が上、という



意識はないか。心理学は人間を輪切ってみる。人の心を決めつける。ひとりていることはそんなにいけないことか。人間はひとりでは生きていけないといっしょくたの言い方しかできないのか。

今の自分はひとりであることが安らぎ。今は孤独を認める人となら手を結べる。ニーチェを読んでいるが共感できる。ニーチェとなら友だちになりたい。

ただ、本当の意味では人間はひとりではいられないとは思っている。社会にまったく必要とされないといけないのだろうか。そのためには大学に行かなくてはと思う。でもその大学も自分の確信する力以外の偏差値などのものさしで誰かに認められないと行けない。

本当は、対人恐怖症だと思う。一步も外へ行けない。口べたで話せない。感情の起伏が激しくカーッとなつては友だち関係をこわしてきた。じゃあ無口でいようと押さえれば暗いヤツといじめられた。人の言葉を信じられず勘ぐってしまう。被害妄想と言われる。いろいろと考えると堂々めぐりで、生きていけないの

ではないかと自殺を考える程落ちこむ時もある。

揺れ動く心の訴えはまるで幼児が駄々をこねているようでした。時に激しい怒りをぶついたり、逆に急に自信をなくして甘えるように弱さをさらけだしたりしていました。不安定な心に添うように一生懸命耳を傾けました。

しかし、電話相談、しかも、こどもテレホン相談なんか相談することは、彼のプライドが許さないようでした。わざわざ「明日電話がなかったら僕の中で解決したと思ってください。明日を境に悩みをシャットアウトしたい、ジ・エンドにしたい。そっちらもそう思ってもらいたい」と宣言して、その後本人からの電話はありません。

母親からの相談は続いていて、それ以後も迷いの続く日々を過ごしている様子です。あの時の本人との会話の中でもう少し何かができていれば、と悔いの残る相談です。

大学生になっても「生き方」の不安を訴え続けた相談

初めは「背が低くて悩んでいる」との主訴。他のことは努力すればなんとかなるのに自分の力ではどうにもならないことが悔しい。太っていれば痩せられる、バカって言われれば勉強すればいい、以前チビと言われたことがどうしようもないことだから悔しい。

きちんとしたことが好き。やったことがその分実績になることがよい。武士道の潔さ、戦前の価値観がひとつしかない世界に憧れる。男なら高倉健、女なら吉永小百合、今の女の子はだらしなくて嫌い。お酒も人間をだらしなくさせるからよくない。人生「適当な」つきあいをしていかななくてはならないから自信がない。

と、やはり人と普通につきあうことができずに悩んでいる浪人生からの電話相談でした。この人とは、三年半の長いおつきあいでした。受験勉強中のスランプ、受験中の緊張や一喜一憂、大学生になって新しい人との出会いの不安、サークルでのつきあい方等、そ

の時々には彼独得の強迫的な価値観と現実との接点を探りながら話しあってきました。運転免許証取得の課程でも臨機応変の苦手な彼は車の流れに乗れず苦労しました。何のための交通法規か、と悩みました。アルバイト先での予想のつかないことへの対応や、仕事仲間のことでも自信をなくすことがしばしばでした。性の悩みも、異性への思いも語りあいました。異性への潔癖な憧れや清く正しく美しくあるべきとの夫婦のイメージの一方で、身の内から沸きおこる性の衝動、許しがたい性風俗なのにそれに刺戟され引き起こされる我が身の快樂。

ほどよいあり方や、ある意味で「良い加減」のふるまいのできるものが、おとなになっていくことなのだと、彼の日々の悩みに伴走したことでしみじみと実感できました。

この時期の悩みを訴えてくる若者の、本当にもろいこわれやすいガラス細工のような心に接していると、遠い日の我が身を含めて、おとなたちは皆よくこの時

期をクリアーしてきたと感激してしまいます。いいえ、むしろやり残してきた部分も多く、今もなお悩みを抱えることがあるからこそ、人生は苦しくとも豊かに思えていけるのかも知れません。

### 砕けた心にも寄りそって

そんなもろい心がひび割れてしまったり砕けてしまった人たちからの相談も電話相談には多くあります。精神の病いを抱えている人たちは、現実の世界でなかなか人に受けいれてもらえずつらい思いをしています。電話という非現実も許されてしまう所で彼らなりの現実（妄想をも含めて）を語り、それを受けとめてもらえることで本来心の中にある不安を理解してもらえたとの実感が得られるのかもしれない。

### 方向感覚がなくなったと訴えた女性

東西南北が混乱、立ち往生してしまう。建物の中にはいると東側と思っていた方が西側になってしまいパ

ニックになる。育った土地では方向や地図の説明の時、必ず東側とか西の方へとか言っていた。そのせいか曇りの日でも東西南北の感覚だけはよくわかり頼りにできる感覚だった。今それがくずれて不安になっている。長年勤めていた会社で転職を言われ、通勤時間が長くなったり人間関係が大変になったりした。その頃から線路の南にあったビルが北に移動して混乱がはじまった。自分の家の中でも自分の寝る場所の枕元だけ磁石がぎかない。霊のしわざかもしれない。

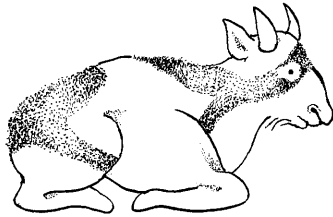
結局仕事もやめ、今森の中でどっちに行ったらいいかわからない時のような気持。元に戻れるのだろうか、いつ戻れるのだろうか。

その他にも「自分の臭いが家畜の臭いのように家から漏れててまわりの人に嫌われている」「マスコミが自分の悩みを取りあげてくれて僕のことをテーマにした曲がつきつぎに発表された。マスメディアと自分の関係はうまくいくが、現実の人間とはうまくいかな

い」など、相談員がどの部分に共感を返していいのかとまどう相談もあります。しかし精神の病いの発症の時期が青年期に多いこと、誘因が青年期の課題のつまりすぎとの説も多いことを考えると、その心のもろさ、人とのつながりの不安への共感を持って聴くことが、相談してくる人を支えることになるのだと思います。まさに方向感覚をなくしたという女性の言う、自分はこれからどうなってしまうのだろうかとの不安なのでしょうから。

### 暖かい関係をめざして

電話相談員としてたくさんの人たちのご相談を受け、むしろ私の方がいろいろなことを学ばせていただきました。特に今回のテーマである「人間関係」の大切さは、どん



な内容の相談であっても、相談してきた人と私との間に育むべき課題でもありました。

悩み苦しんでいる時、不安を抱えている時、自らを肯定的に認められない時、「そんなあなたでいいんだよ、今できている何かを認めていこうよ、あなたをわかってもらうから、立ちどまって行く先を考えるあなたの横にいるから」と暖かく寄りそえることを心がけてきました。

子どもたちが、いえおとなも、人間として育っていくために、多くの人と豊かな触れあいがあってほしいと願うのですが、身近に暖かな触れあいを持っていないと、電話相談は大きな手助けになれると信じて、これからもよき相談者として精進していきたいと思っています。

(元神奈川県横須賀児童相談所電話相談員)